

## 子育てコラム41 parenting column

子育ては楽しいこともあるけど悩みもたくさん。  
そんなママのための役に立つアドバイス。

# 性教育(命の教育)その5 「性教育の今昔」

性教育は自他の心と体を大切にするために必要な日々の学びです。日本では1947年に純潔教育が実施され、1965年以降「性教育」という言葉が使われ始めました。この時代の「性教育」は今とちがいが狭い概念の“性”でした。1968年には「初潮教育」が取り上げられています。私はその「初潮教育」が取り上げられる少し前に、小学校高学年で「初潮教育」らしきものを受けた記憶があります。女子だけ薄暗い教室に入ったこと、黒板に白チョークで描かれた2本の線だけを鮮明に覚えています。大人になって、あの2本線は基礎体温の二相性だったことが分かりました。体を大事にしなければならぬことや月経時の手当てなどは教えてもらいませんでした。

その後随分と性に関する研究や検討が行われましたが、平成になっても「寝た子を起こすな」「性交、セックスという言葉は学校では禁句」という教育者は少なくありません。それでも学校現場とは離れたところで、30年ほど前から性教育の絵本が出回りました。科学的なくみ

が描かれた絵本も多くみられます。性教育の絵本は読み手が手に取ってご自身の感性に合うものを探ることが大事だと思っています。良書といわれていても、読み手にとって合う合わないがあります。図書館には様々な性教育の絵本がありますので是非手に取り、ご自身の感覚に合う本を選んでください。

私が、絵も内容も自分の感覚に合う性教育絵本の一冊に『メグさんの女の子・男の子からだBOOK』(メグ・ヒックリング著/築地書館)があります。大切な体の名称や、受精、妊娠、出産について科学的にわかりやすく表現されています。次号はこの絵本の内容や他の性教育絵本から、子どもたちに妊娠出産について科学的に分かりやすく伝えるためのお話をさせていただきます。

性教育は「生きる力」を育む教育ですが、その礎石となるものは、子どもが養育者から大切にされていると感じることです。幼少のお子さんには「あなたのことがだいすき」など、親の気持ちを伝える絵本も読みあいされるといいですね。私たちが読み手も心が穏やかになります。



子育てひろば「めぐみ」代表  
弘田 恵子

大阪府立母子保健総合医療センターNICUや母乳育児相談室で勤務。その後20年間高知市内のめぐみ保育園で園長を務め、平成30年4月から子育てひろばで、妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)、上級睡眠健康指導士。